倫風宏話

「人間力」と「実践力」強化の年に

上廣榮治

平成二十三年、我が会の創立六十五周年にあたる年が、晴れ晴れと明けましたことを、謹んでお慶び申し上げます。

明けまして、おめでとうございます。

ほとんどのご家庭で、お屠蘇やお雑煮でお正月を祝われたことと思います。しかし、そのお雑煮の内容は地方によって、ずいぶん違っていたはずです。

東日本ではおおむね切餅を使い、西日本は丸餅を使うところが多いといいます。そのお餅も関東や東北、九州では焼いた餅を、その他の地方では餅をそのまま煮ることが多いようです。お雑煮の汁は、近畿では味噌仕立てが普通ですが、全国的にはすまし仕立てが主流だといわれています。

もちろん、結婚や転勤などで出身地と居住地が違ってくることも多く、今では家庭によって、それぞれ特色があるといえるのかもしれません。

さて、最も一般的なすまし仕立てのお雑煮についてです。入れる餅が四角だろうと丸かろうと、焼いた餅を入れようと焼かない餅を煮込もうと、すまし汁はその名のとおり、澄んでいなければいけません。

では、どうしたら澄んだおつゆを作ることができるのでしょうか。答えは簡単です。腰の強い、しっかりとした餅を用いればよいのです。

機械でこねた腰の弱い餅は、たとえ焼いた餅でも煮るにつれて形が崩れ、おつゆを濁らせます。一方、しっかりと臼と杵で搗いた餅なら、いくら煮込んでも、切り口の角がそのまま残って、おつゆを濁らすことはありません。

これと同様に、私たちの新しい一年が、澄みきった晴れやかな一年になるかどうかは、私たち自身が、腰の強いしっかりとした「人間力」や「実践力」を身につけているかどうかによって決まってきます。「人間力」とは、「あの人は人間ができている」とか、「なかなかの人間だ」といわれる場合の人としてのあり方です。どのような状況に遭遇しても、取り乱したり悲観したりすることなく、平常心を保って、的確に正しい判断をすることができる力、それが「人間力」です。そして、的確な判断に基づいて、自分にできることを着実に、継続的に実行していく力、それが「実践力」です。

禅に「莫妄想」（妄想する莫れ）という言葉があります。無業禅師という方は、誰が何を尋ねても、ただひと言、「莫妄想」と答えて、一生を過ごしたといわれています。私たちは、これはどうしたらいいのだろう、あれはどうなるのだろうと、起こるかどうかもわからぬことを心配して、気に病みます。禅師はそれらはみな妄想にすぎないと切り捨てたのです。

私たちの日常はサッカーの試合に似ています。常に予測できない局面での、的確な判断と即座の行動が求められます。迷ったり、逡巡したり、傍観している暇はありません。

私たちの不幸のほとんどは、的確な判断ができないことや、何もせずに悩んだり逡巡したり、ただ怠けているところから生じます。

試験を前にした中学生の不幸は、日頃の授業を上の空で聞いていたことや、試験勉強に手がつかないことからもたらされるのです。また、学校の教師の不幸は、子どもの善導はなおざりにしながら、彼らの向学心や社会性のなさを非難するところに生じます。

愛和できない夫婦の不幸は、それぞれの役割を果たすことを怠りながら、互いに相手の不実を責め立てるところに始まります。子育てに悩む母親の不幸は、何が大切かがわかっておらず、そのため、子どもの問題に的確に対応することができないところにあるのです。

およそ私たちに予想される不幸のほとんどが、自分自身の「人間力」の弱さと「実践力」のなさ、それと背中合わせの不平不満に由来するのです。

では、腰の強い「人間力」や、自分にできることを着実に、継続的に実行していく「実践力」は、どのようにして育まれるのでしょうか。ここで私はまた、お雑煮の餅のことを連想してしまうのです。杵で搗き手で返して一生懸命に作った餅と、安直に機械でこねあげた餅の違いについてです。

どうやら人間も同じようなものであるらしく、総じて甘やかされて育った人間、自分の力で苦難や困難を乗り越えたことが少ない人間は、往々にして、厳しい状況に置かれると、すぐに崩れ、挫折してしまいます。実体験が希薄であるために、ひ弱なのです

彼らはつらいことに対峙することができません。困難に立ち向かって、それを克服することができません。そのくせ、わがままで頑なです。悪いのはすべて他人であると言い募り、何もしない自分を正当化しようとします。甘やかされて育った分、自分で何でもできると思い込んでいます。それなのに、何事にも積極的ではありません。たぶん、やろうと思えばいつでもできると、うぬぼれているからでしょう。

そんな「困った人」は、かつては少数でした。大多数の人はさまざまな境遇に揉まれながらも、しっかり

と自分の責務を果たし、自立した日々を誇らしく、楽しく思っていたはずです。

ところが今では逆に、甘やかされた、社会性のない人間が、どこにでもいる普通の人になったのです。ちょうど、人が臼と杵で搗いた餅が、珍しい貴重な餅になってしまったことと同じです。

さて、皆さんが自分のことを振り返ってみた場合、あなたは人間力豊かな、何事にも平常心を崩さず、為すべきことを着実に行ない続ける実践の人でしょうか。それとも、多分に甘やかされて育った、ひ弱でわがままなところがある人でしょうか。

もしも、反省するところがあったとしても、前途を悲観する必要はありません。過去がいかなるものであるにせよ、過去は過去でしかないのです。私たちの前途は、今日これから始まるのです。

私たちがいま為すべき、いちばん大切なことをしっかりと見据え、その実現に向けて一歩を踏み出すだけのことなのです。今日践み行なう一歩が、さらに明日の力強い一歩につながり、豊かな「人間力」と確かな「実践力」を培っていくのです。

私たちの前途には、思いもかけない事態が待ち受けているかもしれません。しかし、どのような事態に直面しても、これを真正面から受け止め、最善の対応策を考え、実践することは、実は誰にでもできるのです。恐れず、逃げず、ためらわずに、問題の解決を図って、ただちに実践する。ひと度、それに成功すれば、この手法がどんな状況にも適用できるということがわかってきます。もはや何事も恐れる必要はありません。そして、さわやかで仕合わせな一年が開けるのです。